

酒田市立資料館 第二二一回企画展

最上川

氾濫と治水

2019年

4月6日(土)～6月17日(月)

開館時間 午前9時～午後4時30分(展示期間中無休)
入館料 一般100円、小学生～大学生50円(土日は小・中学生無料)
◆酒田まつりの期間(5月19・20・21日)は無料



明治38年(1905)の最上川洪水による遊摺部浸水



赤川を最上川から分離し日本海に流す工事／大正時代



亀ヶ崎上下川原普請所絵図(部分)／天保3年(1832)

酒田市立資料館

SAKATA CITY MUSEUM

〒998-0046 山形県酒田市一番町8-16

TEL/FAX: 0234-24-6544

E-mail: sakata-city-museum@city.sakata.yamagata.jp





5万分の1地形図酒田／大正5年(1916)
 酒田港と最上川を分離する大規模な改修工事が実施される以前の、大正時代の最上川下流域の形が分かる。赤川は最上川に流れ込んでいる。



酒田港と最上川の分離工事で造られた閘門／昭和7年(1932)

近年、局地的豪雨による大規模な水害が全国各地で多発しています。酒田でも昨年8月、豪雨により最上川の水位が上昇し、避難指示が出されました。幸い大事には至りませんでした。幸い大事には至りませんが、自然災害の脅威を再認識した方も多かったのではないのでしょうか。

歴史をひもとけば、最上川は「母なる川」として、流域に暮らす人々の暮らしを支えてきた一方で、氾濫(洪水)を繰り返してきた「暴れ川」でした。河口部に位置する酒田では、河道を変え田畑を飲み込む大洪水に何度も襲われ、嘉永5年(1852)には、遊摺部村が水難から逃れるために、川南から川北の現在地へ村ごと移転しています。

本企画展では、関係者や関係機関よりご協力をいただき、江戸時代の洪水や治水工事について記された古文書や絵図、明治以降に酒田港の近代港湾化とともに進められた最上川河口改修工事、赤川新川開削に関する記録など貴重な資料を通して、先人が取り組んできた治水の歴史を紹介します。



最上川改修起工式を報じる「報知新聞」大正9年(1920)10月19日

イベントのご案内

①歩いて学ぼう最上川河口改修

日時／6月1日(土) 午前10時～12時(小雨決行)
 講師／国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所担当者
 内容／最上川河口周辺を歩きながら、大正～昭和期の河海分離工事、赤川新川掘削工事などについての説明を聞きます。詳しくは申し込み時にお問い合わせください。
 料金／50円(保険料) 定員／20人

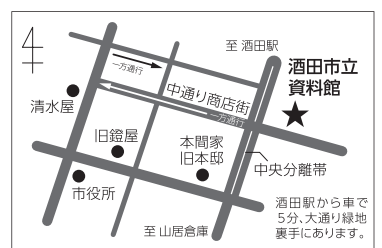
②資料館調査員による展示解説

日時／5月11日(土) 午前10時～(1時間程度)
 会場／酒田市立資料館1階企画展示室
 料金／無料(入館料別途必要)
 ※駐車場に限りがありますので、申し込み時にお問い合わせください。

①②とも4月6日から受け付けます。
 問 TEL 0234-24-6544

展示協力(五十音順)

飛鳥自治会、国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所、酒田市危機管理課、酒田市立光丘文庫、千葉県立関宿城博物館、鶴岡市郷土資料館、久松修氏



酒田駅から車で5分、大通り緑地裏手にあります。